

# ジヤパンクラブ

NEWS LETTER

Japan Club: 1759 Sutter Street #203, San Francisco, CA 94115 • Tel: 415-931-9424 • www.jpclub.org • jc-sf@sbcglobal.net

## 4月度理事会報告

4月度の理事会は14日(土)サンマテオ桜木マーケット2階に於いて、午後4時より8名の理事参加で開かれました。議題1. 5月26日のガレーセールについて、前日の準備及び当日の担当者を決定、もし時間の都合のつく会員はぜひご参加ください。5月25日(金)の準備は午後1時から、5月26日(土)は午前8時から正午まで、あるいは正午12時から4時迄のお手伝いを求めています。

議題2. 会員の高齢化に伴い、相互扶助の役割、内容を再度見直す必要があるのではないか?(福光副会長提案)  
議題3. 会が備蓄している約1万ドルの資金の有効利用について、会員への何らかの形での還元を検討出来ないか?(福光副会長提案)

以上でした、この中で特に議題の3については会員の皆さんのご意見を広くお聞きしたいと思います、ご意見、ご希望がありましたらぜひ事務局迄。  
尚、5月の定例理事会はありません。

ご存知ですか?  
知っている。。。  
役立つ情報

～在サンフランシスコ総領事館からのお知らせ～

1. 全米・カナダ邦人安否確認システム(以下、“全米システム”)は、全米カナダ地域で発生する大規模災害時において、被災地付近に所在する邦人が日本国内の家族等のためにメッセージを残し(いわゆる災害用伝言ダイヤル)、これを国内の家族が聞くことで安全の確認ができることを目的として、2006年9月に導入されました。“全米システム”は、2007年10月のカリフォルニア州の大規模山火事等、全米・カナダ地域での大規模緊急事態に際して邦人の安否を確認するための手段の一つとして活用してきました。

2. その一方で、外務省海外安全ホームページ上においては昨年7月よりオンライン安否照会システム(以下、“安否システム”)を開設し、全米・カナダ地域のみならず、全世界で発生する大規模緊急事態に際し、オンラインにて邦人より照会を受付、外務省と在外公館で情報を共有しつつ、安否確認を行うことが可能となりました。

3. そのため、“全米システム”につきましては、本年3月末日をもちまして終了致しました。海外での大規模緊急事態に際して邦人の安否確認照会につきましては、“安否システム”をご利用いただくか、従来通り、外務省又は在外公館への電話等の連絡による安否照会をしていただくこととなりますので、お知らせいたします。

4. なお、安否システムは、大規模な緊急事態等が発生した際のみ、事案を特定して立ち上げられるものであり、通常(平時)は外務省海外安全ホームページ(<http://www.anzen.mofa.go.jp/>)上に利用案内のみが掲載されます。近年、日本人が海外旅行をする機会が増え、海外における自然災害や事故・テロ事件など緊急事態に遭遇する可能性も増えていきます。そのような際には、その地域に旅行・滞在されている方が本邦のご家族、知人・友人に自らの安否・所在を直接連絡し、家族等を安心させることが最も効果的です。そのためにも、海外に渡航される方は、旅行中の日程・連絡先を必ず本邦の家族等に残しておくとともに、旅行の間も、家族等との連絡を絶やさないでおくことが大変重要です。しかしながら、そのような方法による連絡が困難な場合もあります。安否システムは、そのような場合に、通常の電話による照会に加えて、オンラインでも安否を照会・伝達できる有益な手段として活用いただけることを期待しています。

※問い合わせ先: 在サンフランシスコ日本国総領事館 TEL(代): (415) 777-3533

領事事務手数料の改定について 2012年3月 在サンフランシスコ日本国総領事館  
外貨貨幣換算率の改定に伴い、旅券法及び外務省令に基づく領事手数料が2012年4月1日から下記のとおり改定。

<旅券関係> ※3月31日までに申請された方は旧料金、4月1日以降に申請される方は新料金  
新規・切替: 有効期間10年の旅券: 新\$198 旧\$180、5年の旅券(12歳以上): 新\$136 旧\$124、5年の旅券(12歳未満): 新\$74 旧\$67、訂正 新\$11 旧\$10、増補 新\$31 旧\$28  
<査証関係> 一般入国査証: 新\$37 旧\$34、通過査証: 新\$9 旧\$8  
<証明関係> 署名証明: 新\$21 旧\$19

連載

理事/会員からの寄稿

## 他生の縁

沖山泰彦

昨年の暮れ近く余り音信の無かった学友より「山崎豊子が新小説を書くに当たりAngel Island, Camp TracyとOakland Old Central Stationを取材したいと言っているので案内を頼む」と電話依頼があり、やむを得ず引き受け今年一月中旬に事前調査を済ました。

2月4日、山崎豊子の秘書と新潮社の編集長と記者の三人と共にAngel Islandに赴く。Immigration Stationに残存する主要建築物は2階建てのDetention Barrack。1階の左半分は博物館で入場無料。しかし1階右半分と2階は有料で5人以上の団体の上予約が条件。4人でしかも予約なしでは入場できないかも知れないが当たって砕けるとばかり事務所に行くと「本日は最低4名との表示で若い別嬪の女性社員が丁寧に案内してくれた。この幸運に一行は大感激。その後は第2次大戦時太平洋側の出兵兵士を送り出し戦後は同兵士の帰国時の宿舎跡であるFort McDowellの廃墟を訪れた。

2月6日Brentwoodより一寸東J4号線に沿った処のByron市に、第2次世界大戦中日本及びドイツの特殊知識を有する捕虜を收容し、米軍が敵国の情報を収集したという收容所、Byron Hot Springs Interrogation Center (通称Camp Tracy)に行く。其処には廃墟と化した4階建ての建物が残って居る。戦前はHollywoodの俳優等がお忍びで保養に来たと謂われて居る。

一行を連れて到着したのが10時30分。事前調査の折には、Gateが開いて居たので入って行ったら奥から大きなトラックが出てきて此処は私有地だからと追い返された。

Gateは閉ざされて居たが車が一台停まって居た。老人が笑顔で近づいて来て、「何をしに来たのか」と私に訪ねる。「日本の有名な小説家が捕虜の歴史を書く為に秘書と共に出版社の編集長と記者とで見学の為来たのだ」と応えると「今この所有主が見廻りをして居るから5分位で戻る」と言う。

戻ってきた所有主に見学の事由を説明したら「州の許可証を持って居るか」と。「持っていない」と応えると「それでは駄目だ」と。一瞬落胆したら、「As the owner, I personally allow you」と言ってGateを開け敷地内へ誘導して呉れた。お陰で心ゆくまで充分見学をする事が出来た。所有主の話では今後20年かけて温泉もありゴルフ場もある一大Resort Centerを造成するとの事。これが第2の幸運。

昼食後OaklandのOld Central Station跡に2時半に着く。事前調査の際には外囲いの金網のGateが施錠されていたのに偶然とは言え鍵が外されて居る。扉の隙間から中に入ると奥の方にある駅舎建物から2名の黒人が出て来て出て行けという。扉の外に出た時、来訪の事態を説明すると静かに聞いていた男性が「私が所有主だ。見せて上げる。」と中に入れて呉れた。これが第3の幸運。

以上で取材を終えた一行は大なる収穫でしたと喜んで2月7日に離桑した。世の中には予約も無く訪れて偶然に恵まれる随分幸運な人も居るものだなあ—と感ずると共に今から33年前出張で羅府から桑港へ帰るPSAの私の席の隣に跳び込んで来たのが山崎豊子であったのを思うと袖刷りあうも他生の縁とはこういうものなのかと感慨に耽る次第である。